



平成 25 年 4 月

杉並区立富士見丘中学校

第 3 号

学校運営協議会だより

修復的対話とは

学校運営協議会会長

ちよう しゅんすけ
長 俊介

(日本スクールソーシャルワーク協会会長)
(修復的対話フォーラム副理事長)



これは対人あるいは集団間のトラブルを当事者同士が対話によって解決しようとする方法です。この方法は新しいものではなく世界の先住民が昔からやってきました。ハワイの先住民は「ホ・オポノポノ」、ニュージーランドのマオリ族は「ワカハ」、北米のナバホ族は現在でも「ピースメイキング」という方法で平和的に問題解決を行っています。人と人は共に喜び共に悲しみを分かち合いながら関係を築いていきます。でも、その関係が時には崩れて、ケンカやイジメの原因になることもあります。そのような関係の中で受けた傷を癒し快復する方法それが修復的対話です。

心を育む教育を

校長

わたなべ せんじ
渡邊 仙二



私たちの生活は、近代科学技術が築いてくれて物質的に大変恵まれてきました。そして、豊かな物質文化を楽しんでいます。しかし、その一方で、精神文化がある所になり人間性を失ったり、自然の恵みや祖先から受け継がれた大切なものを忘れつつあります。日々の生活に息づいているさりげない家族の愛情や、受け継がれてきた文化は、「手間暇」という名の「心を育む教育」そのものだったと思います。相手の人を使う心、相手に奉仕する心、相手の人を尊重し、生かす心を大切に富士見丘中学校は、一人一人の生徒が主人公である学校の実現を目指していきます。

平成25年度学校運営協議会委員の紹介



新委員
えんどう まさはる
遠藤 雅晴

まちづくりは中学校から

浴風会地域サービス部長
ケア24高井戸や訪問介護等の担当

まちを歩くと、神田川沿いの緑の豊かさに感動しますが、高齢化の目ざましい伸展には改めて驚かされます。良いまちを残していくのは大人の責任です。そして、まちづくりには中学生の意見も欠かせません。協議会がまちづくりの架け橋になるよう努力したいと思います。



新委員
いずかし あつこ
厳樫 敦子

愛される「うちの町の学校」へ

母娘で富士見丘中学校卒業
22・23年度PTA会長
24年度から青少年委員

富士見丘中学校は、うちの子の学校だったので、「いい学校」との思いが強く愛着があります。「うちの学校の学校」が地域の方にとって、「うちの町の学校」と思って愛してもらえるように、学校・保護者・地域の皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っています。

すぎえ みえこ
杉江 美枝子

16～19年度青少年委員
高井戸青少年育成委員

本校の良さを地域に伝えたい

すずき ひさお
鈴木 久雄

同窓会役員(18期生)
杉並区防犯パトロール隊他

生まれ育った地元に貢献

たなか きょうこ
田中 恭子

16・17年度PTA会長
19～24年度青少年委員

次世代をになう
子供たちのために

みやはら ひろみ
宮原 弘美

元PTA会長、学校支援本部、JONIT本部
臨床心理カウンセラー

杉並「1」の中中学校目指し

やすえ みづき
安江 水城

富士見丘町会長
高井戸青少年育成委員会
富士見丘中震災救援所長他

町会長として地域と
学校をつなぐ

やすだ ともこ
安田 智子

14・15年度PTA会長
リサー子関連業務会社経営

生徒のための学校づくりを

やぶき まさのり
矢吹 正徳

日本教育新聞社勤務
毎日悪戦苦闘しています。

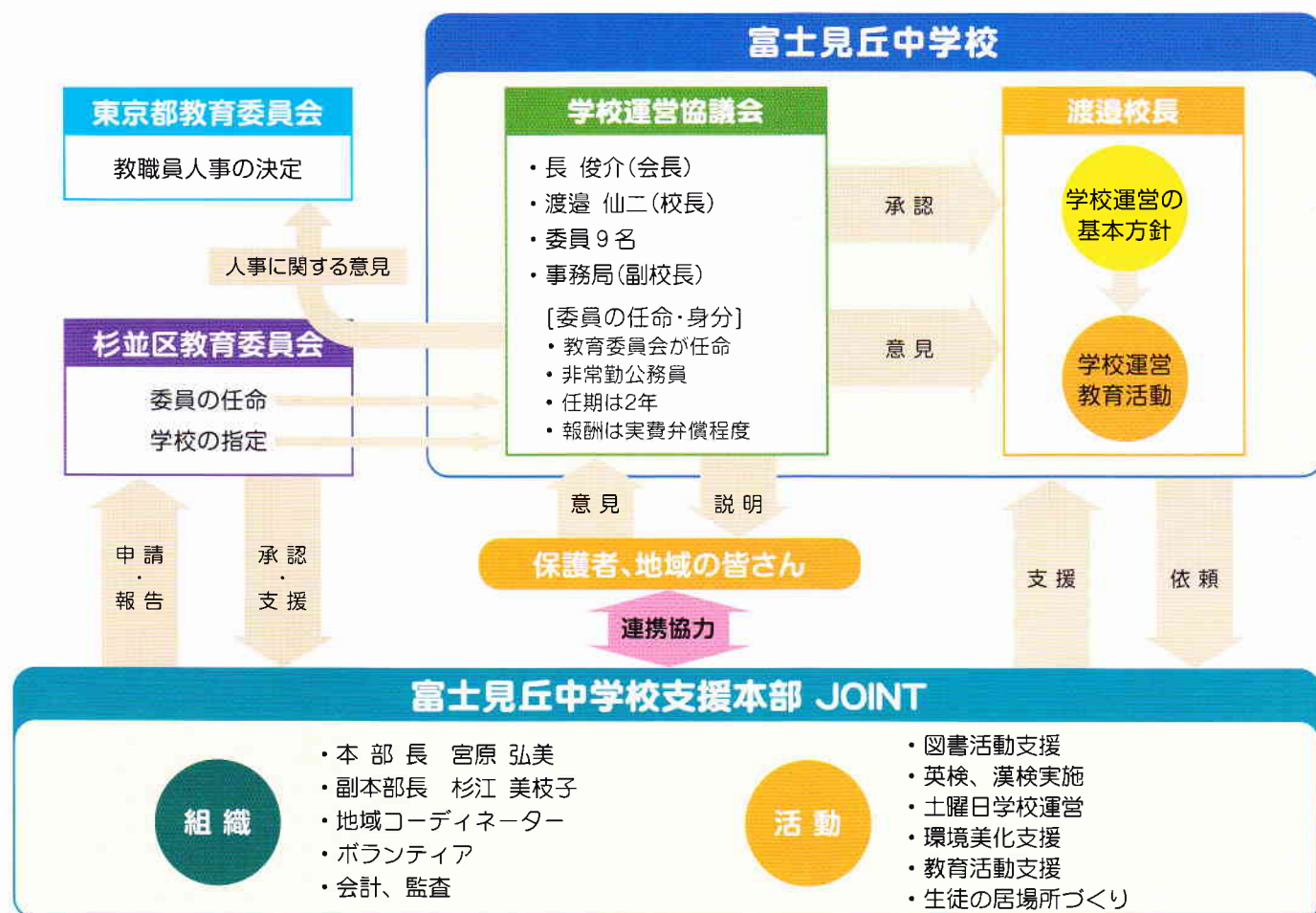
取材の蓄積を学校づくりに
役立てたい

事務局 副校長

地域に信頼される学校へ

富士見丘中学校は平成23年4月より 地域と共につくる学校 地域運営学校(コミュニティ・スクール) になりました

地域に開かれ、信頼される学校づくりを目指して、保護者・地域の方々や学識経験者が学校運営協議会委員となり、一定の権限と責任を持って活動しています。学校運営協議会では、保護者・地域の皆さん・子どもたちの声を受けとめるとともに、月1回会合を開き、教職員と学校運営について協議しています。



学校支援本部は

地域住民や元保護者らが中心になり組織された学校の支援団体です。

学校支援本部 JOINTは

学校運営協議会より1年早い平成22年4月にスタートしました。**JOINT**には、学校～家庭～地域を「つなぐ」という意味が込められています。学校運営協議会とともに、富士見丘中学校を支えています。



土曜日学校

小学生・大人も
漢検
受験中!



漢字検定